

第 14 回 盛岡地区かわまちづくり懇談会 (R2. 2. 19 開催) 意見と今後の対応方針

主な意見		事務局からの回答	今後の対応方針 (R3. 6. 21 時点)
1. 北上川における木伏緑地と舟運に関して			
1-1.1 多世代交流	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地では今まで中高年の構成する NPO 団体等が地道な活動を行ってきた。そこへ、Park-PFI 事業によりビジネスを目的とした若い世代が入ってきた。木伏緑地のテナントに中高年も訪れているが、元々つながりのあった人たちがフリーの方はまだ少なめである。世代間で木伏緑地に対する景観認識の相違はあるが、食を中心とした多世代交流の場を設けることで解決に向かうだろう。 木伏緑地における世代間温度差は情報共有の不足が原因であった。河川整備工事に多額の費用がかかることを想像すると、その一部を使って多世代交流の場を設けてほしい。以前から活動していた団体の方にうまく情報を共有して協力を得ることもできるはずだ。 ぜひ顔のわかる関係性を築いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地では、定期的に関係団体間交流の場を設けている。木伏緑地の事業者が駅前の振興会に参加することも決まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地や隣接する河川敷を使って多世代交流の場を設けることも有効と考えられるため、市を通じて事業者と協議しながら実施を支援したい。 6月19日に舟運開港式イベントを実施、木伏緑地や周辺商店街と連携して開催した。今後、同様のイベントを開催することで世代間交流が深まると考えています。
1-2. 駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地のお客さんや、資材搬入のための駐車場はどうしているのか 	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地は関係者用駐車場も少なく、来訪者は駅周辺の有料駐車場を利用してもらっている。舟運の社会実験時の関係者は夕顔瀬橋から車を入れている。離れたところに車を止め、川沿いを歩いてきてもらうことも良いが、駐車場の確保は課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常時は、第1は公共交通機関の利用、第2は市内の既存駐車場の利用を優先して促進する。イベントの際には安全に配慮する事を前提に河川敷を一時占有として必要車両の駐車を許可する。 緑地内に資材搬入用の駐車スペース3台分を確保している。
1-3. 商業ベースの活動	<ul style="list-style-type: none"> 北上川も中津川も手作り感のある良い活動であるが、地元の熱意だけでは経済的に回っていかないため、限界がある。かわまち大賞受賞事例より恒常的な活動となるのは、商業ベースとなっている活動であることがわかる。 川のよさを取り入れたやり方を考えていくことで、商業ベース・経済性でも盛岡らしい方法になっていくだろう。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 北上川木伏緑地では Park-PFI が始まったが、中津川でも商店街と連携して商業ベースが目指せると良い。 河川敷での活動が円滑に進むよう、国として出来る支援は引き続き行っています。また、活用が高くなれば、更なる利便性向上も含め、整備の検討は行っています。
2. 中津川に関連した取り組みに関して			
2-1. 告知	<ul style="list-style-type: none"> アイデアが出されながらも実行に移せないを感じている。活動力不足へのテコ入れが大事である。イベントは当日初めて知ることが多く、告知が不足している。 木伏緑地にはよ市の波及効果があるそうだが、中津川もエリア一帯の人が集うようになると良い。 定期的にイベントを実施し、沿川の活動賛同者を増やしたい。そのためにも、イベント時には告知が重要である。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 国や市のホームページやフェイスブック等を活用して、イベント告知に協力していく。
2-2. 草刈り	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷での活動の課題は草刈りである。現在、大型の草刈り機を持つ会社に協力依頼中である。 ヤギを育てる等、動物で草刈りを解決できないか。 	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> 草刈りについては、学校の社会貢献活動など広くボランティアを募るべきだ。 定期的なイベント実施によって徐々に集客力を上げ、市民の中から活動賛同者を増やすことも、草刈りボランティアを増やすために重要。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、川のほとりの上映会開催にあたり、実行委員会で草刈りを実施した。定期的なものとして定着すればボランティアも増えると考えられる。
2-3. 盛岡城跡公園 Park-PFI	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡城跡公園の Park-PFI 事業と中津川がうまく絡んでいくとよい。ユリノキに隔てられているが、間引くなどして一体の空間となるようになると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡城跡公園の Park-PFI 事業者は元々中津川での活動意欲のある方であり、中津川との連携には期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市としては、ユリノキは密に育っているため安全性の面からまずは検討を行い、景観面や河川との関係も考えていきたい。

主な意見		事務局からの回答	今後の対応方針 (R3.6.21時点)
2-4. ハード整備	<ul style="list-style-type: none"> 「水辺で花見」が実施できたのは、上の橋の斜路から降りて中の橋まで車で来られるようになった点が大きかった。気持ちだけでは実現できず、ハード面での整備が重要である。商業ベースの活動とするなら、近くに階段を設置するなど利用者の利便性を増すことが大切だ。 	—	<ul style="list-style-type: none"> かわまちづくりのハード整備は昨年度で終えたが、河川敷の利用促進のための必要なハード整備があれば、今後も検討を実施する。
3. その他			
3-1. 雫石川	<ul style="list-style-type: none"> 雫石川についての構想はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今考えているものはない。緩傾斜堤防整備をしてきており、現在が完成形であると捉えている。左岸には利用しづらさがあるが、数年前に杜の大橋上下流の樹木伐採を行い、空間を広げた。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 雫石川の河原の地権者に相談し、若いクルミの木を切り、籠を作ったことがある。駅の裏の良い場所であり、もっと利用があってもよいと思う。 	—	—

第 13 回かわまち勉強会中津川 G (R2. 11. 11 開催) 意見と今後の対応方針

項目	意見・質問	今後の対応方針もしくは現状
1. ハード施設整備について		
1-1. 遊歩道	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道が味気ないと感じた。 ・遊歩道を楽しむための工夫として、設置されたが草に埋もれている文学碑を活かしたい。既に地図があるので予めどこに誰の碑があるか調べておけばまわることができるが、文学碑を案内するサインを設置したり、碑の土台を嵩上げしたりすると良いと思う。 ・上の橋周辺に牛越場があり、歴史的遺産として観光的にアピールできると思う。現在は、ほとんど目立たず、牛越場へのルートに駐車場があるため立ち入りできない雰囲気になっている。 ・車で走っている際、道路から歌碑（河川敷内）がわかるようにしてほしいと市には再三お願いしている。草刈りの際の草刈機破損防止にも関係する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の遊歩道周辺の除草は現状が精一杯である。文学碑や牛越場のアピールについてはまだまだ検討の余地がある。 ・碑の基礎嵩上げについては、洪水の際に危険であるため、現在の状態となっている。
1-2. 草刈り	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈りの話は昨年もあったが、私は草刈りをやったことがないがやってみたいと思っている。肴町はバスセンター再整備等、様々なことで盛り上がっている。中津川沿いをブロックごとに区分けして、町内会や商店街がイベント的に沿川マンションを巻き込んで草刈りを実施できると思う。参加者に MORIO-J ポイントを付与するというアイデアもある。 ・石垣の草刈りは、学校や町内会に振り分けて実施するとよい。それらの仕組みづくりを市にリードしてほしい。 ・石垣に誘導看板が整備されたがツルがはっていた。除草剤をまかないと対処できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除草のやり方については、皆さんのご協力も得ながらどのような形がよいか検討していきたい。中津川は年 2 回の除草、イベントの際の除草を行っており、河川管理者としては手厚く除草している。
1-3. 高水敷の木	<ul style="list-style-type: none"> ・立木の大きなものについて、温暖化による大洪水に備え、伐採を検討すべきだ。すべて切るのは金銭的負担が大きく、せっかく育った木がもったいないようにも思う。専門家でなくても、現在の状況は流下障害になると感じられる。 ・川べりの木の伐採は、市から町内会に予算をつけてお願いすると良いだろう。昔、町内会連合会と連携して、春と秋に実施していた清掃活動のように実施すると良い。自主的に河川沿いで作業しているが、年齢のこともあり難しい面がある。自主的に作業する際は保険をつけるようにしており、市にはそのフォローもしてほしい。市役所任せにすると、取り組みは数年で廃れてしまう。市民自ら作業する風土を市がリードしてほしい。 ・支障木の伐採は定期的にやっていく必要がある。ヤナギは三年ほどで手をつけられなくなる。私も、三川合流地点で伐採を行ったことがある。伐採の際は、市民だけでなく、様々な団体に要請すれば短時間で終わるため、午前の作業後、昼に弁当を食べながら交流することも可能だ。そのような仕組みづくりが必要だ。 ・盛岡城跡公園内のユリノキの対応は、事業者の意見を聞いて進めていただきたい。 ・ユリノキは柔らかいため強風で倒れる危険性がある。数は半分よりさらに減らしてよい。現在は繁茂しているため、川への空間が寸断され、すぐそばに川がある感じがしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木については国直轄の河川管理において全国的に課題となっている。すべて刈るのではなく、河川保全モニター等に意見を聞きながら一部は残す整備としたい。 ・木の伐採作業には安全上の課題もあることから、どのような取り組みがよいか、河川管理者と検討していきたい。
1-4. 加賀野待堰の魚道	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀野待堰の魚道整備後、サクラマスは遡上するようになったが、サケはまだ見られない。当該地は、国、県、市が関わると聞いているが、その後の魚道に関する話し合いをしていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀野待堰の魚道について、サケがのぼってこないことは認識している。今後、検討していきたい。
1-5. ハード整備要望	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川は子供が遊べる川であることが一番の魅力だ。私は肴町で生まれ育ち、中の橋～毘沙門橋で魚を放流して釣り大会、さんさ踊り前の水のお祭りなど中津川の楽しい記憶がある。 ・八幡宮から中津川方面に進んで、川に当たるところに、橋や飛び石を整備いただければ、川を渡って盛岡城跡公園に行くことができよう。 ・人を呼ぶには魅力のある川にする必要がある。鴨川にはカメやコイの形をした面白い飛び石がある。浅岸橋周辺には良い木があるが、中の橋周辺には木がない。洪水を障害しない箇所に程よく巨木があると魅力的になると思う。石のすり台を整備すれば、子供が遊びたがり、家族連れにとって魅力的な 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な河川空間とし人を集めることに関連して、飛び石や橋の設置の可能性は考えられるが、様々な課題がある。中津川は飛び石のようなものを設置すると堆積するため、堆積土砂をバックホウで定期的に除去する必要がある。基礎部分はコンクリートとなるため、サケ遡上への配慮も必要である。また、河川を横断する構造物となるため、その上下流における河川の流れの変化についても検討する必要がある。 ・今後の整備にあたっては、意見を反映させて検討していきます。

項目	意見・質問	今後の対応方針もしくは現状
	<p>空間になるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中の橋の橋脚と欄干の間が錆びており、塗り直しか補修が必要だろうと感じた。 ・川表の意識について意見があったが、美観面が重要である。現在はネコヤナギの繁茂により、川に近づけない。また、橋から川を見た際の見え方も悪く、アユ釣りもできない。整備の際には、視点場を設定し、誰がどこから見たときにどう見せたいかというコンセプトをよく検討してほしい。 ・石垣の工事については、ただの土木工事となっており、魅力的な歩行空間の整備とは思えない。整備のコンセプトを検討し、現場に浸透するようにしてほしい。 	
1-6. 盛岡城跡公園 Park-PFI	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで中津川を背にまちができてきた印象があったが、芝生広場に商店等ができれば中津川から街を見ることが増え、盛岡市として川を表にしたまちづくりを検討できると思う。 ・新たな事業（盛岡城跡公園芝生広場整備）を行う際に、市は広く意見を聞く必要があるが、反対意見に過敏な反応となってしまう印象がある。今回は縁がなければ盛岡で事業を行わないであろう世界的な事業者が多額の自腹を切って参画している。盛岡市には、市民の意見を集約し、良い方向に舵を切っていっていただきたい。そのために、地元の方や事業者とよく対話を重ねてほしい。 ・岩手県は日本の中でも瀬川正三郎ら多くの偉人を輩出しているまちである。岩手公園の整備においては、それをもっと上手に表現してほしい。 ・盛岡の偉人のうち、中津川で遊んだ偉人は多い。石川啄木、新渡戸稲造、原敬、浅野七之助などだ。以前、インド大使館ご夫妻をご案内した際に、海外の公使・大使は新渡戸稲造が大好きだと伺った。盛岡城跡に啄木や新渡戸の碑はあるが、それらを紹介する案内板がなかった。海外からの要人等、盛岡に初めて来た人を案内できるよう、市には案内板を整備してほしい。 ・盛岡城に関する整備は、盛岡の中核に手を加える重要な整備だ。盛岡市の整備では、誰のために、何をするのがわからないことがある。今回は、盛岡全体のために、部分として盛岡城をどう整備したのかわかるものとしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場整備にあたり、中津川沿いであることを考慮して整備していきたい。市では石垣修復や支障木の伐採を計画している。盛岡城跡公園の魅力向上や芝生広場の利便性向上等も含め、共感していただいた上で事業者へ参画いただいている。現在、事業化に向け、新型コロナウイルスの影響を踏まえた活用を検討している。事業者の希望や本日のみなさんの意見等市民の声を今後の整備検討に活かしていきたい。
1-7. PR	<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりに河川敷を歩き、整備内容を紹介いただいて、看板など様々な整備があったことを知った。盛岡市民に対して、これらの整備が浸透していないと思う。県外からの来訪者であればさらにわからないだろう。お金をかけて、皆さんの意見をきいてつくったものを、伝える努力を怠るべきではない。マスコミ（ラジオ、テレビ、タウン誌、市の広報）に取材してもらい、紹介してもらえば広告宣伝費はかけずにPRできる。その際、取材依頼文章もわかりやすいものとなるよう留意してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備内容のPRとしては、来年以降の5年間にかわまちづくり事業のPRを積極的に行っていきたい。
2. 水辺の賑わい創出（ミズベリング）について		
2-1. 今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・減りつつある中津川のイベントについて、今年度できなかった花見や今年度からの映画祭など、仕掛けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き支援出来る事は行っていきます。
3. サケを資源としたまちおこしについて		
3-1. サケのぼり	<ul style="list-style-type: none"> ・サケのぼりはオスだと思うが、本などによると婚姻色はあのように出てこない。今日、杜陵小学校前に縦縞のオスメスの表現の正しい説明板が掲出されていた。サケのぼりは誤った情報を広めないよう改めるべきだ。 ・サケのぼりについて、作り直す機会があればオスメスをそれぞれ制作してもよいだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン等のご意見もあったが現在のものを変える予定はない。オスメスあった方がよいと思うので、次に作成の機会があれば、みなさんからご意見いただいて検討します。
3-2. サケの遡上の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・サケの絶対数が減っている。今年は10回ほど見に行っても1匹しか見ていない。サケに関連してのぼりや冊子に取り組んでも、サケが遡上しなければ仕方がない。遡上数が少ないことに対して手を打ちようがないと思うが、このような取り組みを今後も続けていけるのだろうかと思ってしまう。 ・サケ冊子を「中津川物語」とし、サケをメインに水鳥やナマズ等の生き物を紹介する冊子とするアイデアもある。最近では中津川でアオサギ・シラサギ、カワセミ、セキレイ、カワウがみられる。 	

第 14 回かわまち勉強会北上川 G (R2. 11. 19 開催) 意見と今後の対応方針

項目	意見・質問	今後の対応方針もしくは現状
1. ハード施設整備について		
1-1. 新山船橋	<ul style="list-style-type: none"> ・新山舟橋について、岩手景観まちづくりセンターや鉾屋町まち並み塾から再現できないかという話が出ていた。イベントで多くの人々が来た際に、何らかの形で新山舟橋があったことがわかるようになっていけば、舟運等も絡めてまちへの誘導に資すると思う。 ・立派な親柱ではなく、ロープを結べるようなアンカーが高水敷にある状態でもよい。水位計の延長上に、1メートル角の係留できるアンカーを設置するアイデアもある。船が浮いている状態なら、杭にそれほどの強度はいらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川管理上の必要性について精査し、必要な施設検討を行います。
1-2. 美観面	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の現地見学で、明治橋上流左岸のガードレールや鉄柱の錆びやパラペットの汚れ等、劣化が気になった。石貼り護岸を整備いただいた分、アンバランスに感じる。何かを塗るなり洗浄するなりして、美しい景観にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラペットの汚れ等について、今後、景観改善の検討を行っていきます。 ・錆びておりますガードレール・転落防止柵は、交換や塗装等修繕することで検討しております。(盛岡市道路管理課)
1-3. スロープ整備関連	<ul style="list-style-type: none"> ・開運橋下流右岸緩傾斜スロープについて、コンクリートで作るため、数年後の侵食や洗堀が予想される。持続的な使用のため、上流側に水制工のような、根固め用に大きな石を設置してほしい。かごマットでは切れてゴムボートに穴が開くトラブルが起こると思う。 ・明治橋下流のスロープ整備は非常によかった。木伏付近のスロープにも子供たちが泥で滑らないよう、あのようなゴムのすべり止めがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水制工については、川幅が狭く慎重な検討が必要となる。計画では1.0メートルの深さまで基礎を打つため、1~2回の洪水で侵食されることはないと考えられるが、状況を確認しながら、検討します。
1-4. 旧橋脚跡	<ul style="list-style-type: none"> ・開運橋の上流側に古い橋脚跡があったが、普段は水で見えず、ゴムボートやカヌー、流木が引っ掛かることがあるだろう。危険なため、今回の工事の際に撤去していただけないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・撤去する方向で必要な費用を確保します。
1-5. 掘削	<ul style="list-style-type: none"> ・以前もお願いしたが、岩礁についてどの程度であれば削岩していただけるか。不来方橋下流の岩礁は、水が濁っている時は見えないためよけれない。岩礁は旭橋の上にもある。三点合流の砂の堆積については、解決が難しい旨をきいたが何かうまい手はないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削の必要性について認識しており、可能であれば実施したいと考えています。
1-6. 高水敷の木	<ul style="list-style-type: none"> ・開運橋下流のスロープについて、今後子供も集まってにぎやかになると思う。ニセアカシアや栗が生えているが、景観的に良くないので切ってしまうてよいと思う。年一回でもこまめにやるしかない。 ・根が浅くすぐ倒木するので河岸林としてはよくない。乾いたところに生える木であるため、地面をウェット化して生えないようにする実験をしたことがあるが、あの場所をウェットにしたら遊べなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセアカシアの駆除には苦慮している。伐採については全体の管理費用を確認しながら実施していきます。
1-7. 橋梁名看板	<ul style="list-style-type: none"> ・橋の欄干の下に、橋の名称看板を付けるのは市の管轄だったか。 ・以前国交省と実験的に設置したことはあった。ゴムボートや船に乗る人にとっては、水上から橋を見て位置を判断するため、よいものだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置にあたっては橋管理者(国・県・市)と協議する必要がある。 ・看板の製作については関係者(市・利用者・地域住民等)と検討していきます。
草刈り	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川は、雑草により河川敷を活用しにくいいため、毎度草刈りの話になるが、北上川では状況が違うように思う。植生や管理に差があるのか ・前回中津川会議でも発言したが、盛岡市から川べりの町内会や学校に2~3万円の予算をつけ、木の伐採や草刈りするようアナウンスしてほしい。私は上の橋と富士見橋で、保険に自腹を切って自ら手配して、高校生たちと草刈りを実施している。町内会連合会の会長に話をしたこともあったが、関心を持ってもらえなかった。サケ物語の冊子を配布した学校に呼びかける方が良いかもしれない。子供たちにとっては自分たちが遊ぶ場所なので関心をもってもらえると思う。遊歩道拡幅や階段整備について、町内会ではみなさん喜んでいた。国交省の整備だけではなく、市役所にも動いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生及び管理に違いはないが、最近では木伏緑地のイベントや舟運社会実験の前に除草しているため部分的に回数が多い箇所がある。 また、中津川は都市部を流れ、川幅が狭いためにより目立つ事もあると考えられる。 ・除草は現状年2回が限界である。 ・木の伐採作業には安全上の課題もあることから、草刈りと併せてどのような取り組みがよいか、河川管理者と検討していきたい。

項目	意見・質問	今後の対応方針もしくは現状
2. 舟運による地域活性化について		
2-1. 今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> 舟運事業における水難救助資格者について、舟っこの会にお客さんを乗せられる船舶の免許取得者が4名いる。新しいスタッフまたはレスキューの資格取得も会の方向として確認している。 会としては修学旅行生を乗せる本格運航に向けて、次の段階としてしっかりと組織体制を作っていくたい。 現在5隻あるが、足りないと考えている。先日も大船渡に行って相談してきた。金銭的な負担も考え、年間で継続的に運航できるよう考えていくべき時期にきていると思う。 船着場完成後、6/19に開港祭を開催する。6/18～19に川守稲荷神社・荒神神社のお祭りや花火が予定されており、例年であれば河原に多くの人が集まる。例年の北上川フェスタをバージョンアップした形としたい。花壇や石垣のライトアップや馬や人力車で町屋、街並み塾まで誘導するなど商店街と組んだイベントを実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> (一社) いわて流域ネットワークで、胆沢川の方で、水難救助の国際的資格を取得できる講習会を実施している。県内の消防と連携しての講習会も実施している。舟っこの会の事業継続にあたり、資格取得の必要があればぜひ相談いただきたい。 来年の開港式に向けて出来るだけ支援していきます。
2-2. 整備要望	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜の岡田式の渡しの方法を研究したことがある。係留施設設計の際は岡田式渡船のものとしてほしい。 今年度の船着場整備に併せて、お客さんが乗る時の手すりの整備もお願いしたい。 船着場周辺について、伸びない芝のような草にするか、舗装してほしい。現在、草が伸びている時は物を落とすと見えなくなってしまう。 斜路整備により車で船を下せるようになるが、そこまで公道を通って船を運ぶ必要がある。普通車ではけん引できないため、近辺においておける係留しておく場所またはおいて置ける場所がほしい。現在は、盛南大橋の下に置いているが、川まで道路をいくつも通って運搬しなければならない。御厩橋の啄木夫妻の詩がある花壇のあたりに置ければ、明治橋から入水できると思う。 係留施設を整備いただくが、河原に船をひっかける箇所を何か所か作ってほしい。特に、材木町と旭橋右岸の商店街と何かできるのではないかと思う。舟っこを係留しておいて、商業的にも発展した使い方ができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 合同現地調査を実施し、対応について検討します。(12/15 現地調査実施 一部対応中)
3. 水辺の賑わい創出について		
3-1. 木伏緑地1周年記念イベント	<ul style="list-style-type: none"> 1周年記念イベントでは、今後取り組んでいきたい、以下の3つを実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 木伏緑地出店者以外の出店 マルシェ、クラフトマーケット、ワークショップ 広場の活用 ライブ、ゆるキャラ撮影会、わんこそば体験会等の子ども向け企画 河川敷を活用した体験型アクティビティ クライミング、スケートボード、スラックライン、キャンプ 今後は日常的な場の提供に加え、今回のように周年イベントを引き続き実施したい。他にもやりたかったがコロナで諦めたことがあり、今後さらに広げていけると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き支援出来る事は行っていきます。
3-2. キャンプ	<ul style="list-style-type: none"> 木伏緑地のキャンプはすごく良いと思う。バスセンター跡地のSIDE-Bで実施したまちなかキャンプも評判がよく、キャンパーはこのような機会を求めていることがわかった。河川敷では、いつでもキャンプをしてよいのか。また、キャンプ用品の運搬のため、車両の進入は可能か。 中津川の河川敷でイベントとしてはキャンプをする際は申請が必要か 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に川は常識の範囲内で自由使用である。規模が大きい利用は河川法の許可が必要となるが、申請の要否に迷った際は盛岡出張所に相談してほしい。